



平成29年3月21日、南三陸研修センターにて、「人が集う里山のコンセプトを決める」勉強会を開催しました。第2回「人が集う里山のコンセプトを考える」勉強会を受け、事務局から4つのコンセプトを提案し、投票を行いました。投票の結果は次の通りです。第4回の勉強会で最終案を決定し、具体的なアクションのための部会に向けて動き出します。



投票の様子

(これまでの勉強会の流れ)

第1回：人が集う里山を考える

第2回：人が集う里山のコンセプトを考える

第3回：人が集う里山のコンセプトを決める

第4回：人が集う里山をつくるために何をしていくか考える

【コンセプト案と選んだ理由】

コンセプト	選んだ理由	票
<p>「未来も、田舎。」</p> <p>お祭り、強いつながり、豊かな自然の恵み。 今、入谷に当たり前にある「くらし」。 それらは、代々紡がれてきた、田舎の営みです。 それこそが本当の価値なのだ気づきました。 田舎であることが、ぜいたく。 田舎であることが、私たちの誇り。 そんな私たちのふるさと、入谷を未来にも。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まさにメッセージ文に書いてあるとおり。何もない「田舎」なんだけど、それがいい。なつかしい。新しく何かをつくったり考えたりするのではなく、今の豊かな入谷を未来に残して行きたい。「田舎」のくらしこそ、東北らしさ、日本らしさ。クールジャパン。 ・今入谷に当たり前にある「くらし」が宝ものだと思います。その一つ一つに光をあてて、輝かせてほしいなあと思います。 ・全ての日本国民のふるさとになるコンセプトを表しているのだから、田舎という意味にふるさとであることも含まれていると考えて。 ・都市化=便利だったり良いこと。ではなく今の入谷の文化だったり豊かな自然を未来につないでいきたい。 ・当たり前だけど、とても大事な視点だと思います。 ・どじょうやたにしが田んぼにいていようになったらいい。 ・田舎だから！！ ・進歩も発展もない感じがする。 	7
<p>「未来も、入谷。」</p> <p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入谷という言葉大切にしたい ・入谷という言葉のなかに全部入っている ・入谷という言葉で抱くイメージが違うので、何をめざすかわからないのでは 	
<p>「入谷暮らしのおすそわけ」</p> <p>入谷では当たり前の“おすそわけ文化” 隣近所で作られたもので今日の夕飯が成り立つ豊かさ 日頃からのゆったりとったりが たすけあいおたがいさまの精神を育み 「結」を現代にまで繋いできた</p> <p>そんな入谷のいいところを 外から訪れた人にもおすそわけしよう ゆったりとったりの感覚で 一人ひとりのご縁をつないでいこう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんなことをシェアすると楽しい、そんなことを求める時代が来ているような気がする ・「結」を現代的に言えばシェアリングエコノミーになると考えます。全てを取ってしまうのではなく皆が少しずつ共有する助け合う心が今、社会の中で注目されているのだと思います。このシステムを分かりやすく今の人々に共感を呼ぶようにしたい。 ・ちょっとしたおすそわけで顔が見れたり、話ができたりするので、つながっている感じが良いと思った。おもてなし、より力が入っていない感じがまた良い。 ・交流事業といって特別なことをしようとするのではなく「おすそわけ」という身の丈のことから始めていくイメージ。 ・“おすそわけ”という言葉が交流人口拡大のための体験プログラムや、民泊などの活動にマッチしていると感じる。 ・4案とも素晴らしいと思いました。交流促進を意識すると、よそ者が来たくなくなるようなコンセプトがいいと思います。そういった意見で、このコンセプトがいいと思います。 ・失われつつあるけど、失いたくないものだから。 	6
<p>「ただいま、いりや。」</p> <p>移ろう四季のなかで、人の営みと多様な生き物が育む豊かな自然。里山に抱かれた入谷地区には、命が共鳴しあう美しい暮らしがあります。</p> <p>そしてなにより、人情味あふれるあたたかい人々。ここは、どこか懐かしさを感じるみんなのふるさとです。思わず「ただいま」と口にしてしまう魔法がここにはあります。</p> <p>これまででも、これからも。 ただいま、いりや。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・迷いなくこれが良いと思いました。あたたかい言葉がずっと入ってくる。「いりや？」興味がわきます。コピーの最後は「入谷」にしたほうがいいのかと思いますが。 ・思わずほんとに「ただいま」と言いたくなると感じたから。 ・ピンとこない・誇大広告・自虐を除く消去法です ・自然豊かな四季の食材が楽しみにしていること ・人情味あふれる人々、人間が売り、人間が財産の入谷であれば明るい未来にならと思う。 ・言葉がやさしい感じがする。 	5
<p>「母なるまち、入谷。」</p> <p>里山に抱かれた谷。それが入谷地区。 あるときは、産業の中心として。 あるときは、復興の拠点として。 あるときは、観光の窓口として。 入谷地区の人々は、あたたかい人柄で、よそものを受け入れてきました。</p> <p>何世代にもわたって紡がれてきた、 母のように包み込むやさしさこそが、入谷の力。 そんな真の強さを、これからも。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業」「観光」「復興」と意味が広すぎる。 ・いろんなことができそう。 ・志津川は入谷から発展したから、まさに母。災害のときも拠点になったし、海の豊かさの源は里山である。 	0

・該当なし：多様な暮らし、多様な食、多様な人柄が地域を構成しており、4つの言葉だけでは、入谷を楽しむ住民の姿が連想されなと思う

みなさんの入谷への想い、こだわりポイントが共有できた第3回勉強会でした。

入谷ならではのコンセプト決定、部会の活動スタートに向けて、引き続きよろしくお祈りします！（高橋）

